

平成30年度 世界へのトビウ事業 講師研修会 開催結果報告

1. 日時 平成31年3月22日（金）13:30～16:30（受付13:00～）

2. 会場 浦和合同庁舎5階 第5会議室

3. 参加者 34名 〈別添資料①〉
外国人講師 18名 日本人講師・アドバイザー 16名

4. 開催内容

時間	内容
13:00～13:30	受付
13:30～13:35	主幹よりあいさつ
13:35～13:40	石戸より資料説明 全体会導入というテーマの意図について
13:40～14:20	<事例発表> 授業前の全体会の模擬 ・具体的な手法 ・外国人講師とアドバイザーの役割 等を学ぶ。
14:20～14:50	<グループワーク> 参加者が6つのグループに分かれ、3つのポイントで意見を出し合い 話し合いをまとめる。 ① 事例発表をうけて「効果や課題」について②全体会で「子どもたちに伝えたいこと」は何か？③より効果的な全体会の「内容とやり方」を考える。
14:50～15:00	休憩
15:00～15:30	6グループより①～③のポイントを発表
15:30～15:40	SDGsについて（難波主査） SDGsを取り入れた実践例発表 金子玲子さん（講師・アドバイザー）
15:40～16:30	交流会 各参加者が持ち寄ったお茶とお菓子で情報交換と交流を行う。

研修会の概要

司会：難波主査

○ 開会 松本主幹より挨拶

○ 第1部

- 本年度の実績と全体会導入テーマの意図について（石戸）
- 事例発表 芳賀洋子さん（アドバイザー）〈別添資料②〉
（カンボジア） 森 ボーラさん
（マレーシア） リム ガイチュン さん
（中国香港） リリー チョン さん

内容

最初に外国人講師全員が一言ずつ自分の国の言葉で自己紹介と挨拶。

その後、パワーポイントの資料の説明をしながらポイントで、3名の講師に話をしてもらう形式。

全体会のテーマは「おんなじってうれしい！ちがうってたのしい！」

カンボジアの森ボーラさんは、世界で最も古い文字とされるクメール語の紹介と日本で暮らしたからこそ感じる、自分の国の文化への誇りについて。リム ガイチュンさんはマレーシアの多国籍文化について。リリー チョンさんは外国人として日本で子育てをする経験について。

それぞれパワーポイントの資料と連動した、母国紹介や経験談を話した。

<グループワークのテーマ>

- ① 事例発表をうけての「効果と課題」
- ② 全体会をすることで「子ども達に伝えたいことは何？」
- ③ より良い全体会の「内容とやり方」を考えましょう。

グループ活動の様子



グループ発表

3分を目安にまとめたことをグループごとに発表する。

Aグループ

① 効果

- 世界の違いが判る
- 共通点も判る

課題

- わかりやすい資料・道具・動画を準備する

② 子ども達に伝えたいことは何？

言葉や衣装は違って人間はみんな一緒に同じ

③ 内容とやり方

- 身の回りの物を活用する（おもちゃ・衣装・挨拶等）
- 伝わりやすいように映像を使う
- 「共に」「遊ぶ」気持ちが大切



野呂さん（日本人講師）



Bグループ

① 効果

- たくさんの国の話が聞ける
- 各クラスがスムーズに授業に入れる
- 講師が同じ話を2回も3回もクラス毎に行う授業展開を軽減させる

課題

- 学校との打合せが重要
- アドバイザーと講師のコミュニケーションが不可欠

② 子ども達に伝えたいことは何？

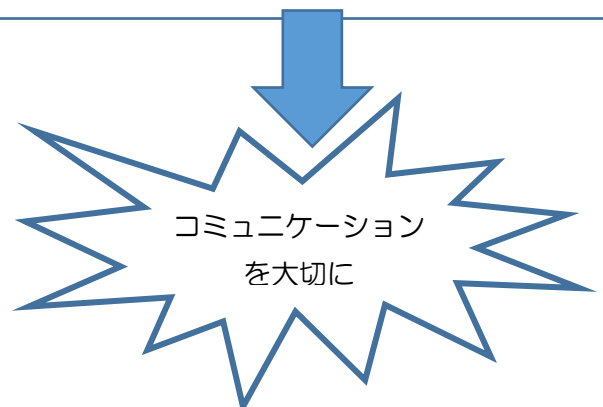
- 「違う」を楽しむ
- みんなそれぞれが特別な1人
- いろんな国の人と一緒にいい学校、いい国をつくろう

③ 内容とやり方

アドバイザーと学校、アドバイザーと講師、講師と生徒の双方向の関係づくり



芳賀さん（アドバイザー）



Cグループ

② 効果

- 複数の外国人講師の紹介を一度にたくさんの生徒にできる
(メッセージ、違い、授業の目的、生の情報)
- 1人の持ち時間が3分しかなかったとしても知らない、聴かないよりはずっといい
- 他の講師のやり方を見て勉強になる
- 授業前に取り入れることで、全員の講師の元気な挨拶を聞き、各クラスの盛り上がりにつながる

課題

- たくさんの情報を一度に聞くことで混乱してしまう

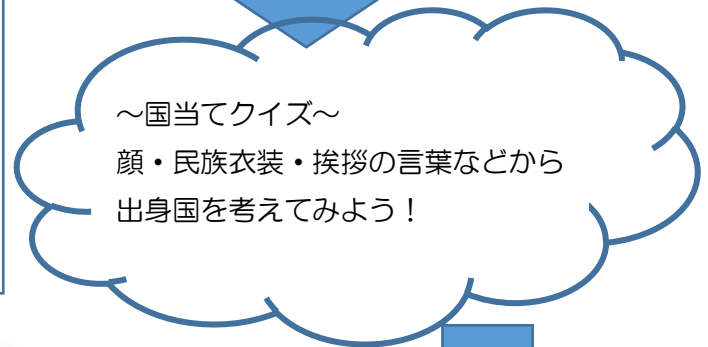
② 子ども達に伝えたいことは何？

- 文化の違い (いただきます、ごちそうさまなど)
- 常識の違い
- 言葉の違い (世界には様々な言葉がある)
- 母国の人しか知らない情報の提供
- 日本と母国の交流の歴史や関係など

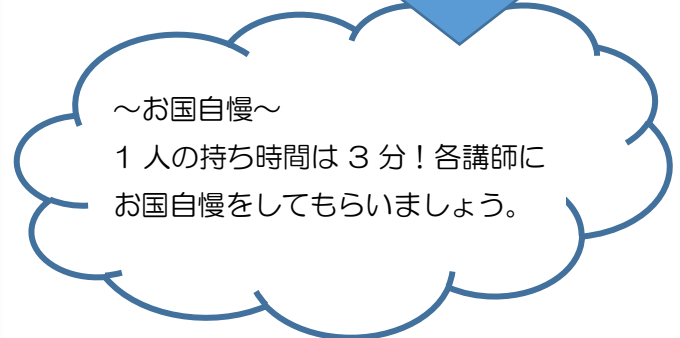
③ 内容とやり方

- 世界地図で出身国の場所を示し、生徒に当てさせる
- 生徒を参加させることが大切
クイズ形式で講師と生徒の双方向で進める
- 生徒の年齢にあった内容にする
- 低学年の場合は遊びや体験を取り入れる
- 日本に来て経験した良いこと悪いこと
- 民族衣装を着用する
いつ着るのかをきちんと説明をする

例えば…



その他



尾嶋さん (アドバイザー)

Dグループ

① 効果

- 目的が共有できる
- 目で見て、いろいろな国があることがわかる

課題

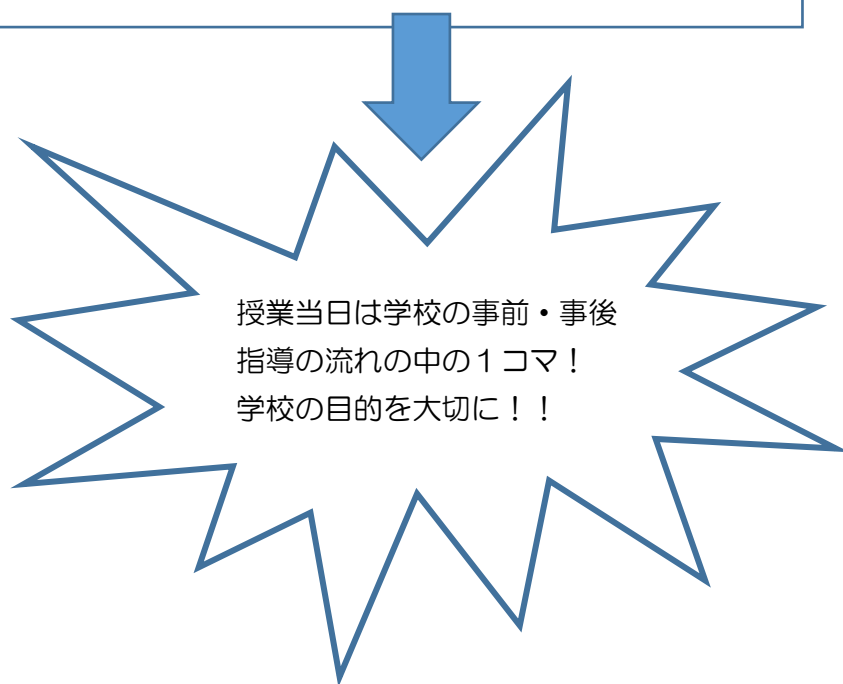
- 時間が短い
- 子ども達に伝えたい具体的な内容を把握する

② 子ども達に伝えたいことは何？

- 文化比較
(挨拶、遊び、生活、学校の様子)
- 生徒たちへのメッセージ
(大切にしていること、幸せについて、好きな言葉、未来に向けて)
- 今日の振り返り
- 次の授業に期待を持てるような国の紹介

③ 内容とやり方

- 全体会が授業前の場合
挨拶など興味を持ってそうなことを簡単に伝える
- 全体会が授業後の場合
メッセージを中心に伝える。(認めてほめることで、共に学ぶ楽しさを話す)
- 総合学習の事前指導と事後指導の流れを含めて「何を」「どのように」するかを打合せで決めておく



金子さん (アドバイザー 兼 日本人講師)

Eグループ

① 効果

- 1人ではなく、多数の国について話を聞くことができるので違いが判る
- 子ども達の心の準備
- 異文化の視点を聞くことで視野が広がる

課題

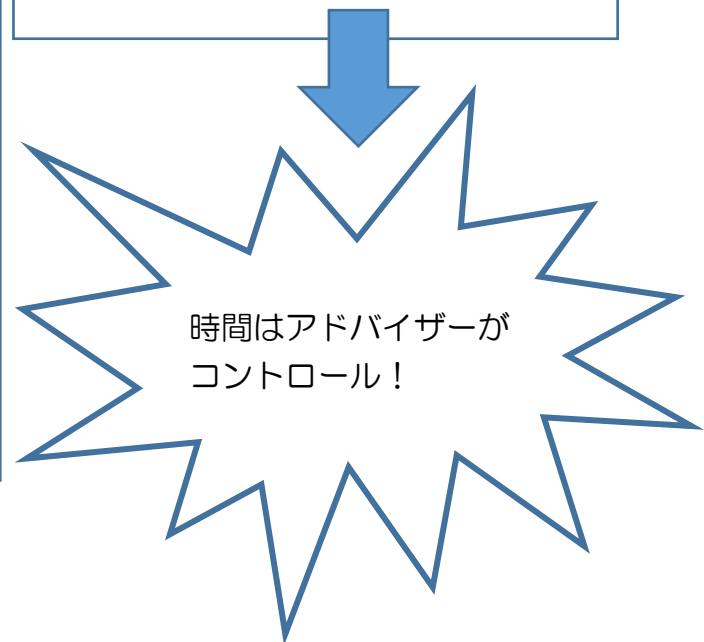
- 子ども的人数が多いので双方のやり取りが難しい
- 短時間なので時間を守ると伝えきれない
- 内容と流れは講師に事前に伝えてほしい
- 日本語でうまく伝えられているのか不安
- 日本人⇄外国人ではなく、それぞれ1人の人間ということを伝える

② 子ども達に伝えたいことは何？

- 日本について考える機会を作る
- メッセージ（出会いを大切に！など）
- 母国の悪いところより良いところを伝える
- 言葉は分からなくても伝えることはできるので、わかろうとする気持ちの大切さ
- どの国の人にも興味を持つ、言語は日本語と英語だけではない！多様性を認める力
- 日本が恵まれていることに気づく授業ではなく、どの国のことも認める心を持てる授業に！

③ 内容とやり方

- 子どもに話をしてもらい流れを作る
- 質問タイムがあれば、数を決めておく
- クイズやゲームを入れて工夫
- 言葉がわからなくてもできるワークを取り入れる
- 講師がバラバラの話をするのではなく、興味を引くテーマを決めることで各国の違いを楽しむ
- アドバイザーと学校の打合せで、意見を学校へ伝える
- アドバイザーと講師と学校の間を円滑に！



井上さん（アドバイザー）

Fグループ

① 効果

- 生徒のやる気が出る
- 講師全員とふれあえる
- 各国の違いをつかむ事ができる

課題

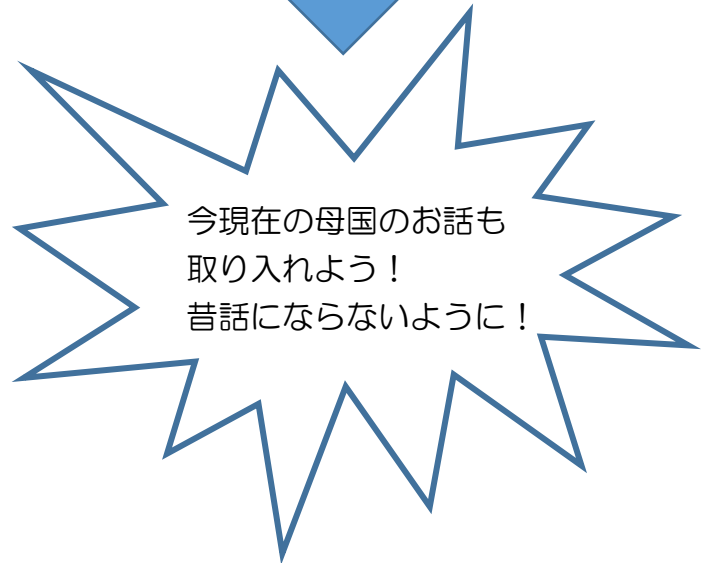
- 時間が短い
- 移動に時間がかかる

② 内容とやり方

- クイズと質問を取り入れる
- 具体的で身近な話を取り入れる

② 子ども達に伝えたいことは何？

- クイズやジェスチャー、例え話を入れる
- 「違い」を伝える
- 「今日の授業は楽しい」と思えるように
- 全員が民族衣装を着る
第一印象が大切！



小倉さん（アドバイザー）



五十洲さん（アドバイザー）



与羽さん（中国講師）



王さん（中国講師）

SDGs の実践例発表

全体会としてもクラスの授業でも SDGs を取り入れた授業経験のある金子さんより。
ワークショップとして「自己紹介」と「未来の木」の作成、2 つを実践例としてお話いただく。
「自己紹介」

SDGs とはクラス目標と同じこと。地球に住んでいる全ての人の目標というわかりやすい説明から授業をスタート。クラス目標として「いいクラスにしよう」と思ったらどうするか？生徒から出てくる意見がつまりは SDGs でいうと 17 のゴールと同じ。

○第 2 部 茶話会について

出身国にかかわる料理やお菓子を持ち寄り、みんなで会食。



○講師研修会を終えて

昨年度の講師研修会では、普段講師が実施している授業を、出身国の「学校」をテーマに事例発表を行い、現状把握からどのような準備・配慮が必要かを話しあった。

本年度は講師やアドバイザーのレベルアップも見込める中で、「国際理解教育」について改めて考え、学校のニーズを把握した上で講師がより良い授業展開をするための全体会導入をテーマにグループワークを行った。

グループワークを通して、異文化を知ることだけが異文化理解ではなく、多文化を認め合い共存していく多文化共生の必要性を再認識できたと感じる。さらには、全体会を取り入れるメリット・デメリットも含めて全員で考えることができ、全体会導入の必要性をより実感してもらえる時間となった。今後も研修を生かし学校・アドバイザー・講師の連携をより充実させて、実りある授業展開につなげてほしい。

参加者からは、アドバイザー・講師の交流のためにも「開催回数を増やしてほしい」という意見、また「開催時期を見直してもらいたい」という研修会への意見が見受けられた。登録講師も増えている今、新しい講師との関係性づくりの為に、開催回数を増やすことは難しくても、次期や日程を見直すことは検討するべきかもしれない。

反省点として、時間の都合上 SDGs についてのワークをカットしてグループワークに重きを置いた臨機応変な時間配分で進行したが、当初の予定通りの進行ですべての講義を聞きたかったという意見もあったので、次年度以降は内容を考えた進行を組めるように改善したい。

茶話会は、各自が持参したお菓子や料理を食べながら交流を図ることができたと思う。料理の説明が欲しいという要望があったので、次年度からは対応をしたいと思う。